

阿波国府跡第6次調査概報

— 1 9 8 7 年 度 —

1988

徳島市教育委員会



阿波國府跡第6次調査概報

— 1 9 8 7 年 度 —

1988

徳島市教育委員会

序

阿波国府は、奈良時代の中央集権化の中で、地方行政官庁として造営されたものです。

阿波国府は、徳島市国府町府中の大御和神社を中心に展開したといわれますが、長い歴史の経過の中で幾多の変遷を繰り返し、威容を誇ったと思われる奈良・平安時代の府城や政府の建物は地下深く眠ってしまったようです。

昭和57年度より9ヶ年計画の予定で、国庫補助を受けて、県下でも最大級の重要遺跡である阿波国府跡の府城及び政府の規模・構造などの確認調査を実施しております。

本遺跡の調査によって、該期の歴史的環境の復元あるいは文化と技術の伝播状態を把握する上において貴重な資料が提供されるものと思われます。

最後に、調査にあたりまして、ご指導・ご助言をいただきました水野正好・田中琢磨先生をはじめ、地元の研究者の方々とともに、地元及び地権者の方々の真摯なご助力に対して深く感謝いたします。

昭和63年3月31日

徳島市教育委員会

教育長 久木吉春

例　　言

- 1 本書は、国庫補助を受けて、徳島市国府町観音寺字神明の「阿波国府跡」の重要遺跡確認調査（第6次調査）の概要報告である。
- 2 発掘調査は、徳島市教育委員会が主体となり、「阿波国府跡発掘調査団」を編成して、昭和62年12月7日～昭和63年2月10日まで実施し、事務処理については徳島市教育委員会社会教育課が担当した。
- 3 検出遺構の実測図については、調査員・調査補助員が分担した。遺物整理については、調査員・調査補助員の協力を得て実施し、遺構・遺物の写真・実測及び製図については、一山　典、三宅良明が担当した。
- 4 本書の執筆・編集は、三宅良明の協力をえて、一山　典が担当した。

目 次

序

第1章 位置と歴史的環境..... 1

第2章 調査に至る経過..... 4

第3章 調査成果の概要..... 7

I 検出遺構..... 7

II 出土遺物..... 9

第4章 小 結..... 12

挿 図 目 次

第1図	阿波国府跡と周辺の遺跡	2
第2図	阿波国府跡調査地点周辺地形図	7
第3図	検出遺構配置図 上 上層 下 下層	10
第4図	出土土師器実測図	13
第5図	出土須恵器・施釉陶器・瓦器実測図	14

図 版 目 次

図版 1	阿波国府跡調査地点周辺	航空写真
図版 2	上層検出遺構	北より
	上層検出遺構	西より
図版 3	下層掘立柱建物ほか	北より
	下層掘立柱建物ほか	西より
図版 4	S D - 29溝遺物出土状態	
	S D - 29溝遺物出土状態	
図版 5	S D - 29溝遺物出土状態	
	S D - 30溝遺物出土状態	
図版 6	S E - 02井戸	
	S E - 02井戸遺物出土状態	
図版 7	S E - 03井戸上面	
	S E - 03井戸上面遺物出土状態	
図版 8	S E - 03井戸	
	S E - 03井戸遺物出土状態	
図版 9	出土土師器	
図版10	出土須恵器・施釉陶器・瓦器	

第1章 位置と歴史的環境

吉野川の支流である鮎喰川によって形成された沖積平野の末端付近に位置する徳島市国府町（左岸）と名東町を中心とする一帯（右岸）は、縄文時代～古墳時代の遺跡から奈良・平安時代の寺院跡・瓦窯跡などの多数の遺跡が存在し、阿波の原始・古代の中心地であった。

代表的なものを列举すれば、鮎喰川左岸の矢野遺跡、南内遺跡、奥谷1・2号墳、宮谷古墳、矢野古墳、阿波国分寺跡、阿波国分尼寺跡、（名西郡石井町）など、鮎喰川右岸の名東遺跡、鮎喰遺跡、庄遺跡、南庄遺跡、筋句山1・2号墳、八人塚古墳、穴不動古墳などの集落跡、銅鐸・銅劍出土地、古墳群、寺院跡などの重要な遺跡が存在し、一部に条里の残存も認められる。

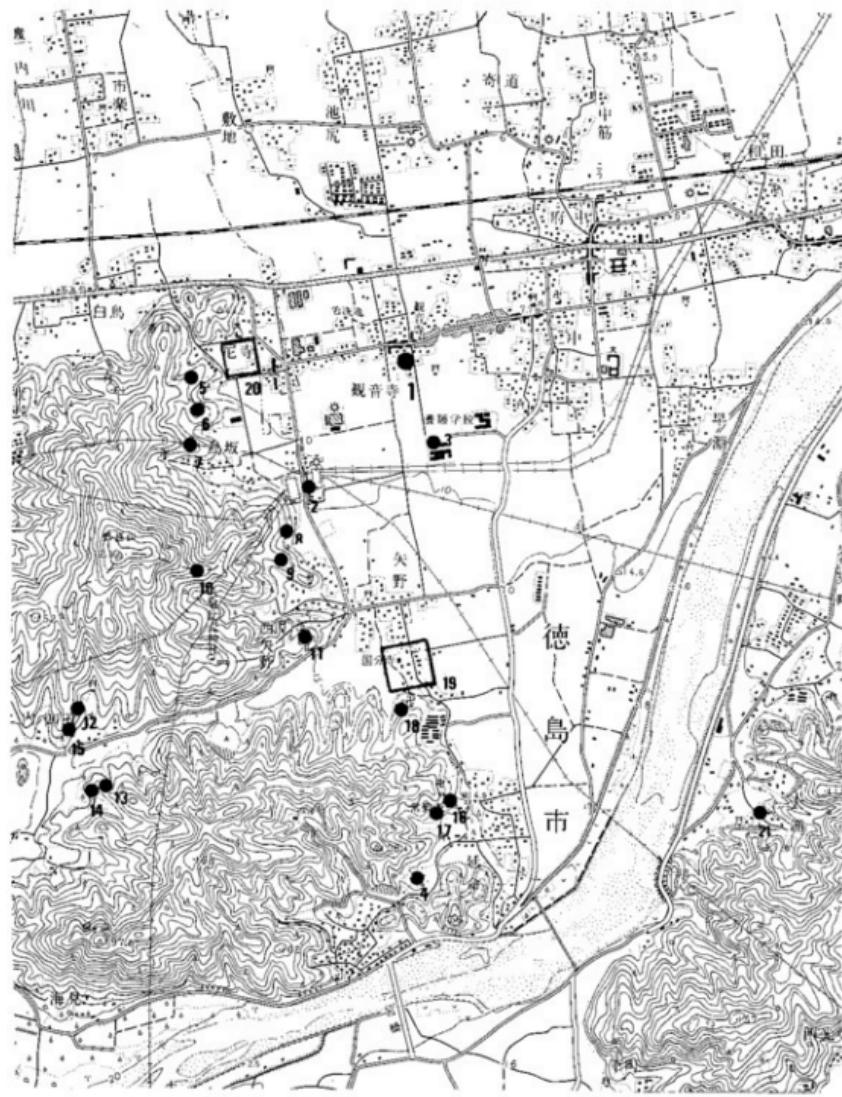
これらの遺跡の一つと、鮎喰川左岸の徳島市国府町中字田渕の大御和神社周辺の沖積低地上に、「阿波国府跡」が展開したといわれるが、さらに西方に位置していた可能性を有していた。

歴史時代に入ると、鮎喰川下流域の左岸一帯を中心に、阿波国分寺跡、阿波国分尼寺跡、阿波国府跡などが展開する。

阿波国分寺跡は大御和神社の南南西約1.5kmの四国靈場第15番札所の現国分寺を中心に展開したといわれ、海拔11m前後に立地している。昭和53年度からの3次にわたる発掘調査等により、寺域の東・西・南・北限の一部確認、中心伽藍の一部などが検出されている。出土遺物としては、土師器・須恵器・黒色土器・瓦質土器・陶磁器片などとともに土馬などがあげられる。瓦壇類としては軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・寛斗瓦・隅切瓦・丸瓦・平瓦・埴・壁壇などが発見されている。

阿波国分尼寺跡は大御和神社の西方約1.2kmに位置し、海拔10m前後に立地している。昭和45・46年度の発掘調査により、金堂・北門・築地・溝等の遺構が検出されている。寺域は158m天平尺1町半四方で、伽藍中軸線は真北から西へ約11度ふれ、条里地割とはほぼ一致していることが確認されている。金堂跡は東西（桁行）約28m、南北（梁行）約18mで長さ約3m、幅約50cmの凝灰岩の敷石や地覆石の地盤などが検出されている。出土遺物としては、土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・瓦質土器・綠釉陶器・青磁・白磁等の土製品類とともに、少量の鉄製品等の金属製品類、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・丸瓦・平瓦・埴等の瓦壇類などが検出されている。

阿波国府跡は海拔7m前後の沖積低地上に立地する「大御和神社」を中心に展開したといわれ、從来より歴史地理学的研究を中心に成果が発表され、府域の規模・位置推定などがなされている。明治41年発刊の「徳島縣名勝案内」に「國司廳址」として紹介されたのをはじめ、阿波国府跡の位置推定等が中井伊与太・小川国太郎・秋山泰・藤岡謙二郎・三好昭一郎・美馬弥藏氏等により発表されている。福井好行氏は阿波国府跡推定地と周辺部の条里の研究及び地名からの研究、木下良氏は国府と条里に関する米倉説の再検討による阿波国府跡ほかの位置推定等の研究、米倉二郎氏は国府の等級の昇格により國府の規模も変容したという研究成果を発表された。これらの研究成果等をふまえ、阿波国府跡の重要性が指摘され、昭和57年度より重要遺跡確認調査が実施されている。検出遺構としては、掘立柱建物・柱列・溝・土壙（土壙墓）・井戸・石組造構などが存在する。出土遺物としては、土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・土鍤・陶硯・埴堀等の土製品類、石鍋・石硯・砥石等の石製品類、鉄製品・古錢等の金属製品類、丸瓦・平瓦等の瓦壇類などがあげられる。



第1図 阿波国府跡と周辺の遺跡

縮尺 2万5千分の1

- | | | | | |
|------------|-----------------|------------------|------------|------------|
| 1 阿波国府跡 | 2 矢野遺跡—国府安電所地区— | 3 矢野遺跡—国府養護学校地区— | | |
| 4 藩田遺跡 | 5 ひびき岩古墳群 | 6 日枝神社古墳群 | 7 内谷古墳群 | 8 矢野古墳 |
| 9 奥谷1号墳 | 10 奥谷2号墳 | 11 宮谷古墳 | 12 内ノ御田1号墳 | 13 内ノ御田2号墳 |
| 14 内ノ御田瓦窯跡 | 15 内ノ御田瓦窯跡 | 16 常楽寺跡 | 17 常楽寺瓦窯跡 | 18 瓦谷瓦窯跡 |
| 19 阿波國分寺跡 | 20 阿波國分尼寺跡 | 21 大浦遺跡 | | |

以上のほかにも、觀音寺跡・西蓮寺跡・常樂寺跡などの寺院跡とともに、瓦谷瓦窯跡・常樂寺瓦窯跡・国分寺瓦窯跡（平窯跡）などの瓦窯跡の存在も知られている。

また、鮎喰川右岸の名東町3丁目に所在する大浦遺跡からは、密教法具等の独鉢杵・三鉢杵・錫杖等の土製鋳型が検出されており、全国的にも注目されている。

第2章 調査に至る経過

阿波国府跡については、前述のごとく、従来より多くの研究成果が発表されているが、主として歴史地理学分野での位置及び規模等の推定を中心としており、徳島市国府町府中字田渕に所在する大御和神社を中心に展開したといわれている。

これらの研究成果と昭和56年度の国府中学校建替工事に伴う事前の緊急調査及び分布調査の成果等より、「阿波国府跡」の重要性が再認識され、昭和57年度より6ヶ年計画の予定で「重要遺跡確認調査」として、国庫補助を受けて実施している。

本年度の調査は、昨年度の調査の関連とともに、宅地造成工事に伴う緊急調査に引き続き、大御和神社の西方約600mの地点で調査を実施することになりました。調査に先立ち、「阿波国府跡発掘調査団」を編成して、昭和62年12月7日～昭和63年2月10日まで調査を実施した。

阿波国府跡調査団構成メンバー

顧問 沖野舜二（徳島県文化財保護審議会会長）

田中良平（徳島市文化財保護審議会委員長）

秋山泰（徳島県文化財保護審議会委員）

伊丹功（徳島市文化財保護審議会委員）

岩崎正夫（徳島市文化財保護審議会委員）

樹田務（徳島県教育委員会文化課長）

調査指導 水野正好（奈良大学文学部教授）

田中琢（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長）

指導・助言 中田正・松永住美

調査団長 久木吉春（徳島市教育委員会教育長）

調査副団長 峯川好仁（徳島市教育委員会社会教育課長）

調査担当 一山典（徳島市教育委員会社会教育課主事）

三宅良明（徳島市教育委員会社会教育課主事）

調査員 地上仁（奈良大学OB）

田上富弘（東海大学OB）

清水謙（大阪芸術大学OB）

宮本敬子（橘女子大学OB）

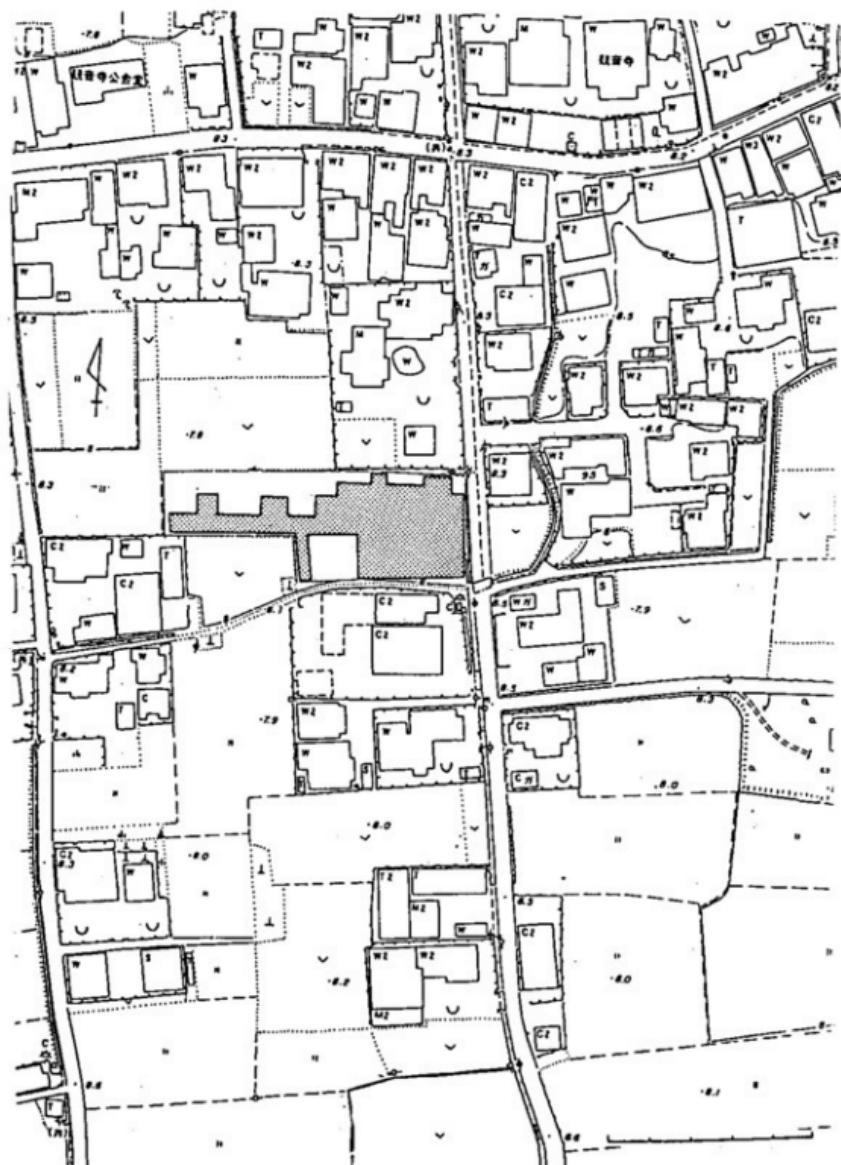
山 下 かおり (福岡大学OB)

吉 崎 ま り (関西学院大学OB)

調査補助員 藍 谷 博 臣 ・ 明 石 辰 也 ・ 岩 佐 忠 典 ・ 貝 出 六 一
樺 福 博 ・ 木 村 文 之 ・ 楠 本 邦 博 ・ 倉 佐 晃 次
坂 野 文 昭 ・ 佐 薮 一 二 ・ 富 尾 吉 彦 ・ 原 田 孝 久
町 政 春 ・ 松 本 幸 浩 ・ 向 井 徹 ・ 盛 喜 八
森 木 孝 ・ 山 口 良 一 ・ 板 橋 トシ子 ・ 大 伏 鳩 子
岩 野 五十鈴 ・ 漆 原 節 子 ・ 川 上 アケミ ・ 小 原 佐 和 子
沢 口 繁 子 ・ 澤 口 淑 子 ・ 杉 本 タミノ ・ 武 知 敏 子
松 島 富 美 子 ・ 身 野 ミヤ子 ・ 美 馬 邦 子 ・ 矢 本 アサ子
矢 本 益 子 ・ 幸 田 笑 子

地元協力者 小 川 伝 次 ・ 鈴 江 襄 次 ・ 多 田 正 文 ・ 早 川 ひさ子
板 東 保 之

調査にあたりましては、奈良大学の水野正好先生、奈良国立文化財研究所の田中 琢先生をはじめ、地元の研究者の方々にも種々の御指導・御助言をいただきました。記して感謝の意を表する次第です。また、板東保之氏にはプレハブ仮設の土地の提供、小川伝次・多田正文両氏には、飲料水等の提供、鈴江襄次氏には駐車場の提供をいただきました。なお、いちいち御芳名をあげられませんでしたが多くの方々の御援助・御協力をいただきました。併せて感謝の意を表する次第です。



第2図 阿波国府跡調査地点周辺地形図

■ 調查地點

第3章 調査成果の概要

本年度の調査（第6次調査）は、昨年度の調査成果等をふまえて、大御和神社の南西約600mの地点（I-1地区と呼称）で、調査対象面積は500m²である。該地域の宅地造成に伴う事前の緊急調査区（I-2地区と呼称）に引き続き、4m×4mのグリッドを設定して、北よりA～H、東より1～9とし、A1・A2地区などと呼称した。

I 検出遺構

今回の調査により検出された遺構は、掘立柱建物2・柱列2・溝10・井戸2・土○5などとともに、多数の大小のピットがあげられる。

I-1 地区

掘立柱建物

S B-05は、現状では2間×5間の総柱の南北棟であり、柱間心々距離は梁行（東西）及び桁行（南北）ともに7尺（約2.1m）で、南側にさらに続く可能性を有している。一辺70～80cm前後の隅丸方形形状のプランを呈する柱穴にさらに約20～30cm前後、深さ20cm前後の円形の柱穴を掘っている。柱穴内より若干の土師器片などが出土している。

柱列

S A-04は、S B-05を逆し字状に囲み、S B-05の東辺桁行柱列より東へ10尺（約3m）、北辺梁行より北へ10尺（約3m）離れて位置し、南北6間分、東西5間分が検出されており、塙と思われる。一辺60～70cmの隅丸方形形状の柱穴に径20cm前後の円形の柱穴を掘り込んでいる。若干の土師器片が出土している。

溝

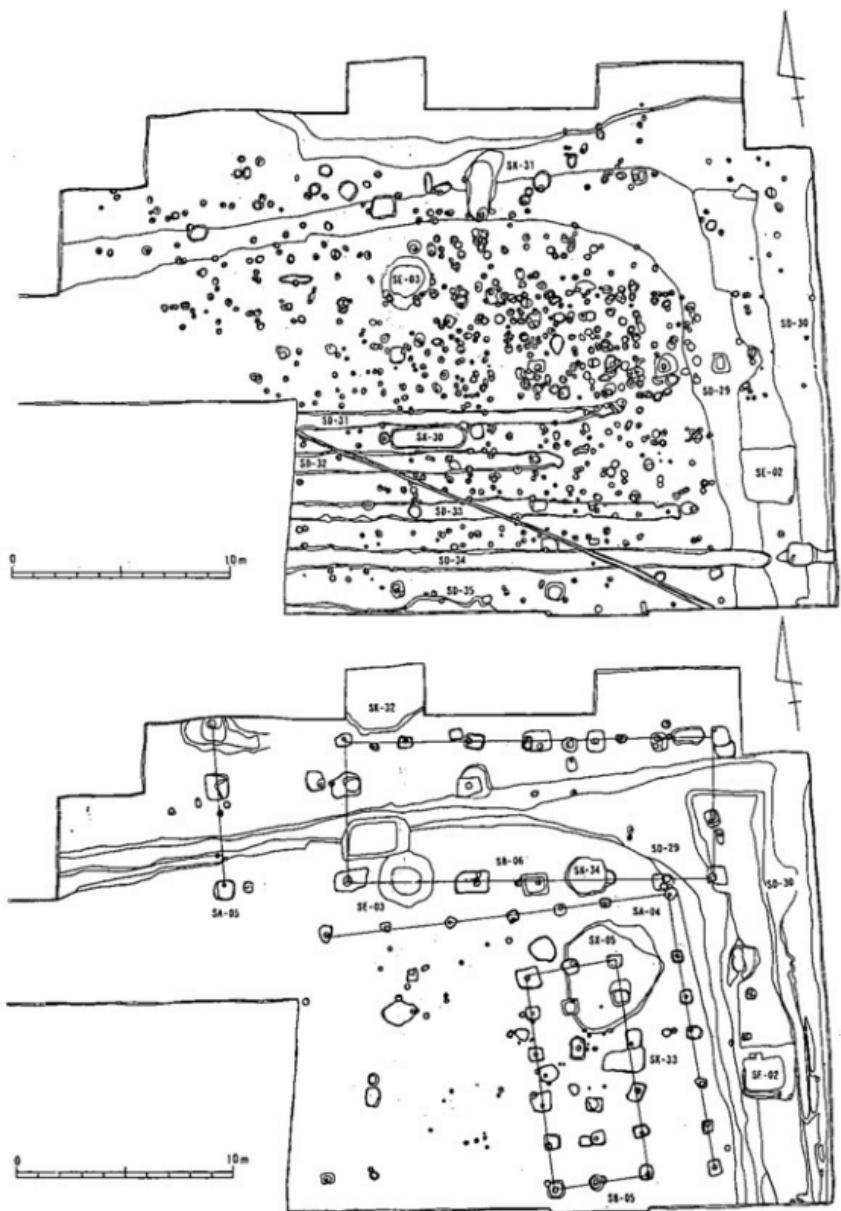
S D-29は、調査区の東端部に検出された建物を画する南北溝で、北側の調査区東端中央部付近で直交する形で東西方向に曲り、幅約1.2～2.2m・深さ約70～110cm前後で、南北約20m分・東西約70m分が検出されている。多量の土師器とともに黒色土器・須恵器・施釉陶器とともに石帶などが出土している。

S D-30は、S D-29の東側約2mに平行する南北溝で、幅約1～2m、深さ約80～90cmで約20m分が検出されている。土師器・複弁蓮華文軒丸瓦片などが出土している。

井戸

S E-02は、S D-29を切っており、一辺約2.4mの隅丸方形形状のプランを呈し、ほぼ中央部に一辺約80cmの木組を有し、井筒は曲物で径60cmと径36cmの二重構造となっている。土師器・瓦器・平瓦片などが出土している。

S E-03は、径2.4m前後の円形プランを呈し、ほぼ中央部に87×78cmの木組を有し、井筒は44cmの曲物である。土師器・須恵器・丸瓦・平瓦・櫛などが出土している。



第3図 検出構造配置図

上 上層 下 下層

II・出土遺物

今回の調査により検出された出土遺物としては、土製品類・石製品類・木製品類・金属製品類とともに瓦壙類が存在する。

(1) 土 製 品 類

土製品類としては、土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・施釉陶器・土鍤などが出土している。

土 師 器

土師器は、SD-29を中心に調査区全体から検出されており、出土遺物の整理が完了していないので詳細は不明であるが、供膳形態の皿・杯を中心若干の壺・高杯などとともに、煮沸・調理形態の甕・羽釜などが若干数認められる。また、古墳時代の小形壺も出土している。

皿には、丸底のもの（A類）と平底で高台のつかないもの（B類）と高台を貼り付けるもの（C類）とに大別される。

杯には、丸底のもの（A類）と平底で高台が付かないもの（B類）と高台を貼り付けるもの（C類）とに大別され、高台を削りだすもの（D類）はほとんど認められない。

壺には、丸底のもの（A類）と平底で高台の付かないもの（B類）と高台を貼り付けるもの（C類）にと大別される。

杯と皿の器種分けは困難であるが、器高3cm前後を基準にしておきたい。なお、皿・杯・壺ともに底部の形状、口径の大きさや調整方法の相異などにより、若干の細分化が可能と思われる。

須 恵 器

須恵器も量的には少ないが、調査区全体から検出されている。器種としては、杯・蓋杯・高杯・甕・壺などが存在する。

杯には、丸底のもの（A類）が出土しているのみである。

壺と思われる底部に「大」の範書土器が認められるものとともに円面硯の破片が西側調査区より出土している。

蓋杯には、宝珠状の撮みを有する蓋（平安時代）と内面に短いかえりを有する蓋（7世紀代）とが存在する。

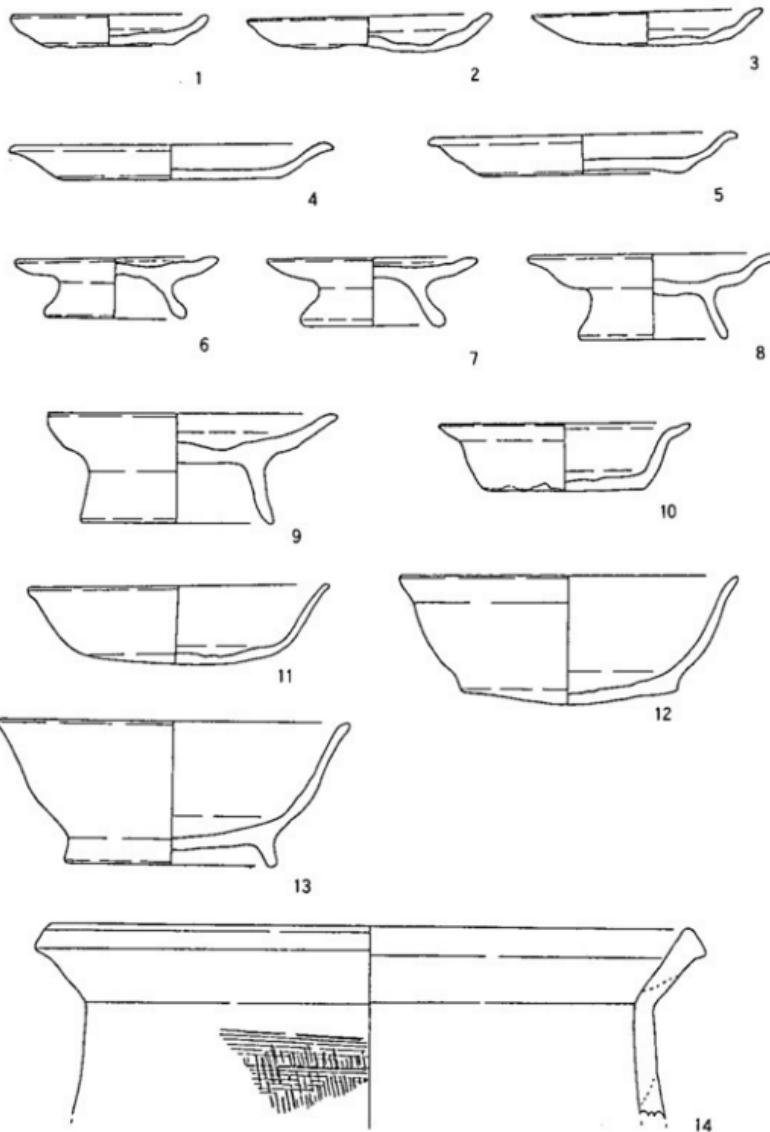
小型瓶（21）は、外反する口縁端部を下方におりまげ、さらに上下端を断面三角形状にしており底部に糸切り痕を有し、甕（22）は外面にカキ目などの調整を施している。

黒色土器

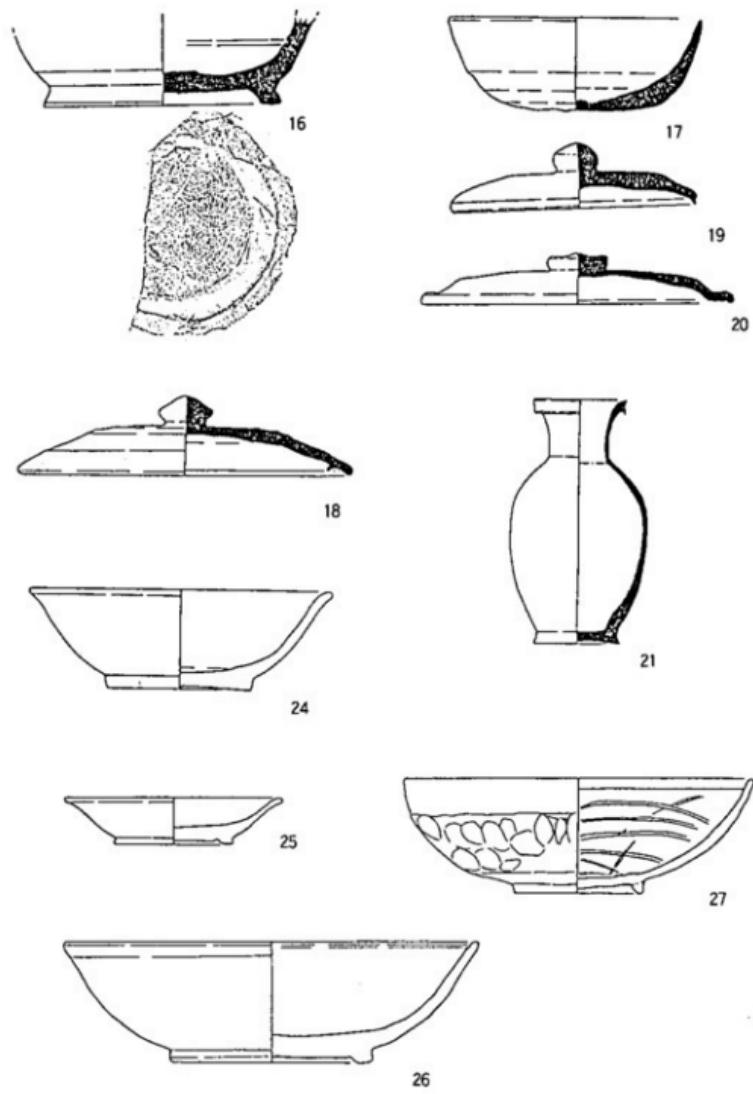
出土点数は少ないが、高台を貼り付けた椀などが出土し、いずれも、内面が黒色を呈する黒色土器Bに属するものである。

瓦 器

大部分が小破片であり、全体の形状を復原するものはすくないが、低い高台を有する椀がSE-02の上面より出土している。



第4図 出土土師器



第5図 出土須恵器・施釉陶器・瓦器

第4章 小 結

今回の調査目的は、阿波国府跡の政府に関する遺構の検出であり、従来より西政庁跡と推定されている大御和神社周辺部の調査成果及び昨年度の調査成果をふまえて、大御和神社の西方約600mの地点で調査を実施した。ここでは、今回の調査成果の成果等に関連した問題点をあげて、小結としたい。なお、国府・国衙・政庁等の概念については、中山敏史氏の指摘に従っておきたい。⁽¹⁾

① 検出遺構及び出土遺物に関する諸問題

検出遺構としては、前述のごとく、擧立柱建物・柱列・溝・井戸・土壤などとともに大小のピットがあげられる。

擧立柱建物のSB-05は現状では2間×5間の純柱建物であり、倉庫などの雑舍的な建物と考えられ。SB-06については、規模・構造などより、阿波国府に密接に関連する建物と思われ、国衙中心的建物の可能性が大である。年代比定のための伴出遺物は少ないが、いずれも平安時代中期頃に比定される。特にSB-06はSD-29により切られているため、10世紀以前の可能性を有している。

柱列のSA-04はSB-05に、SA-05はSB-06に付属する壠の要素の強いものと思われ、平安時代中期頃に比定される。

溝については建物に付属し、国衙域などを画すると思われるSD-29・30などが認められ、SD-29は何回かに埋没し、土器捨て場様相を呈し、平安時代前期～中期に比定される。SD-30は平安時代中期頃に比定される。

井戸のSE-02・SE-03は阿波国府に密接に関連した人々が使用したものと思われ、平安時代後期に比定される。

土壤については、陶邑編年のIII-2型式に併行する時代に比定されるSK-33以外は大部分が平安時代後期に比定される。

出土遺物としては、前述のごとく、土製品類—土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・施釉陶器・陶硯・土鍾など、石製品類—石帯・砥石、金属製品類—古銭・釘・不明鉄製品・銅製経筒の蓋など、木製品類—曲物・櫛など、瓦塼類—軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・塼などがあげられる。土師器の皿・杯・碗以外は出土点数は少なく、大部分が破片である。

土師器については、皿A・皿B・杯A・Bを中心に若干数の椀・高杯・甕などが出土しており、年代的には大部分が平安時代前期～後期の所産である。一部に古式土師器が認められる。

須恵器については、出土点数な少ないが、陶邑編年のIII-2型式に併行する時期のものが若干数認められるが、大部分は陶邑編年のIV-3型式以降に属し、年代的には平安時代前期以降に比定される。⁽²⁾

註

(1) 山中敏史「国府・都衙跡調査研究の歴史」『仏教藝術』124 1979. 5

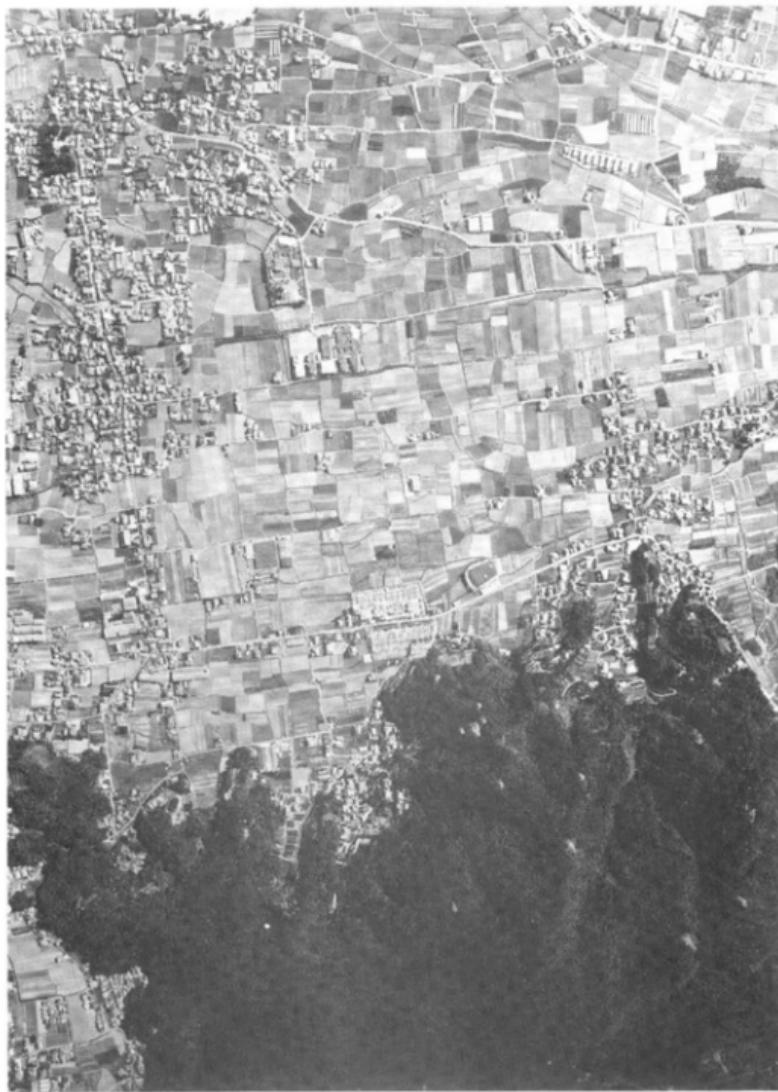
(2) 田辺昭三編「陶邑古窯址群I」1966. 4

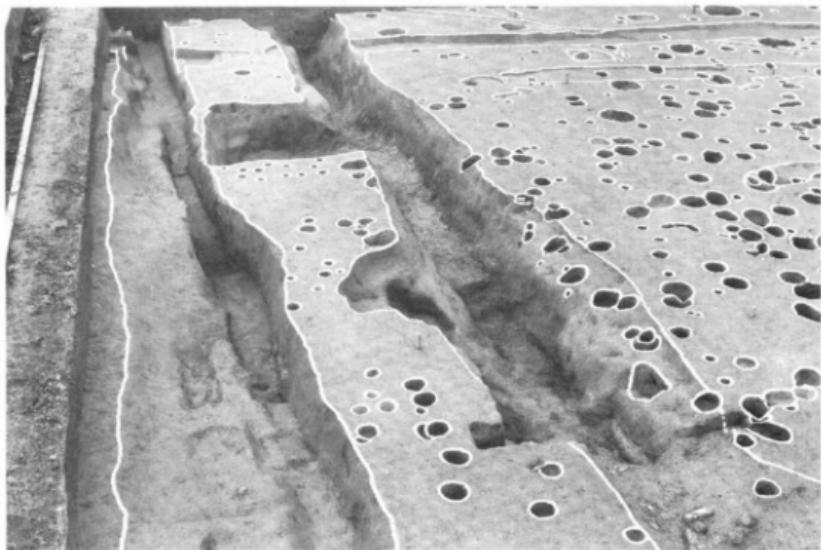
中村浩ほか「陶邑I」『大阪府文化財調査報告書』第28輯 1976. 3

図 版

航空写真

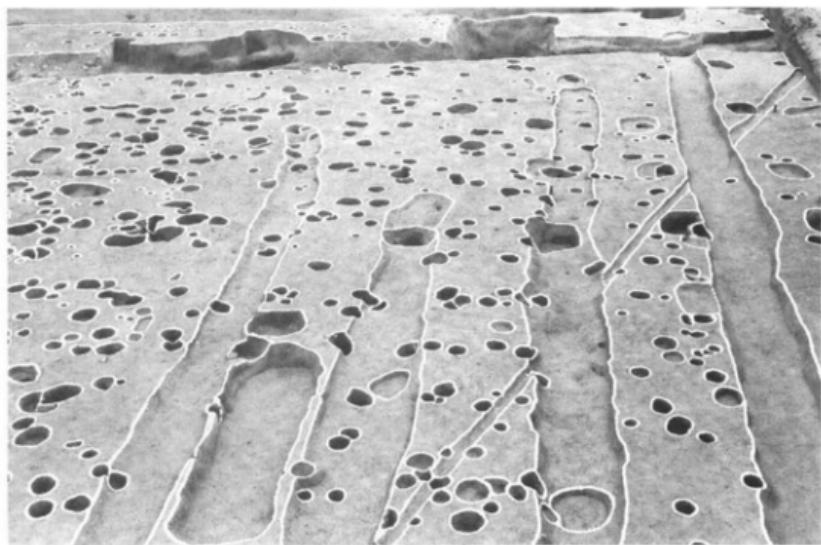
阿波国所跡調査地点周辺





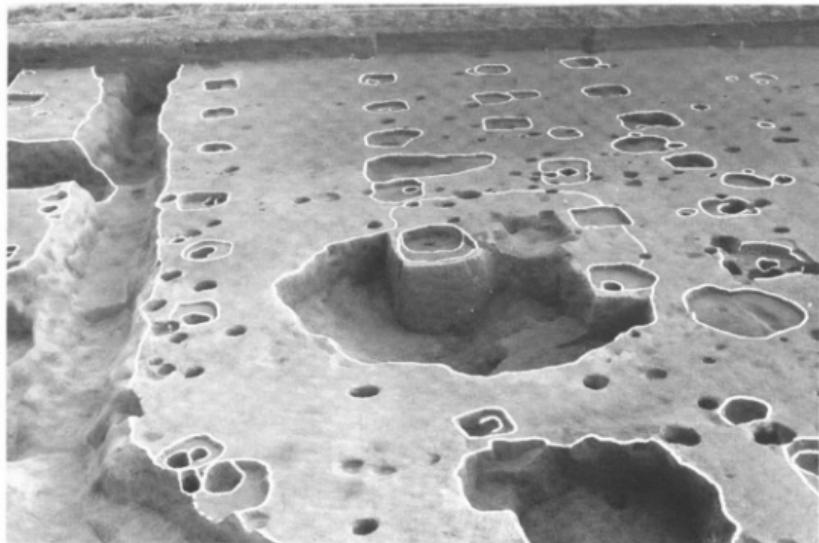
上層検出遺構

北より



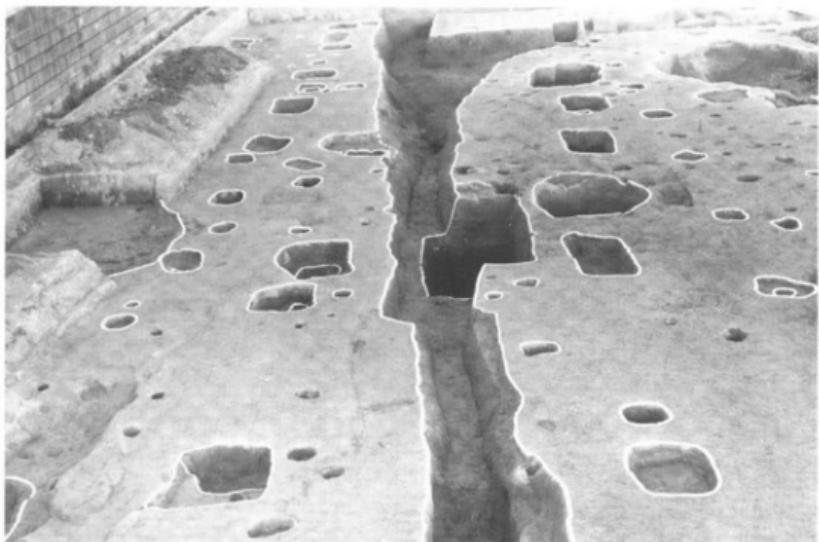
上層検出遺構

西より



下層掘立柱建物ほか

北より

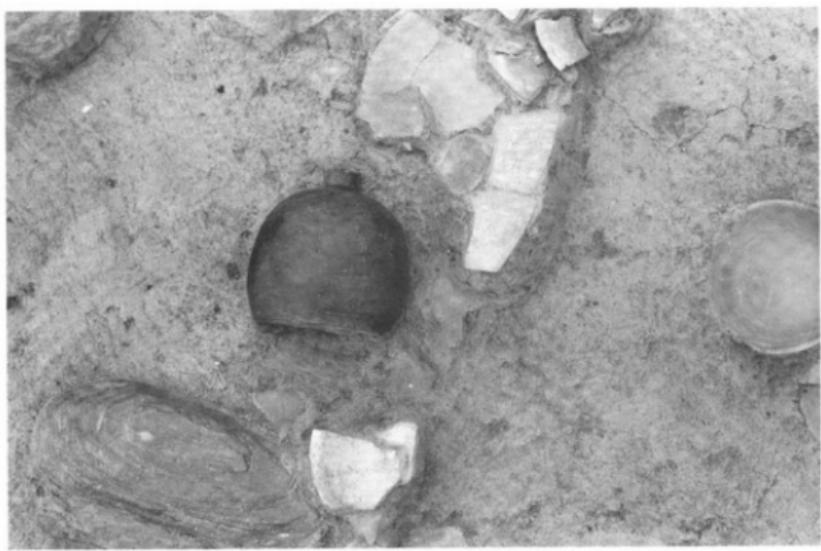


下層掘立柱建物ほか

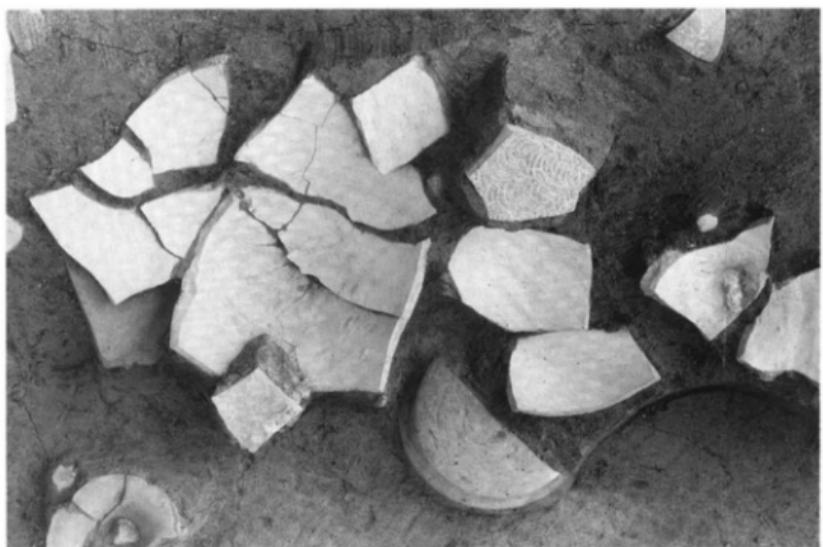
西より



S D - 29 沟 遗物出土状态



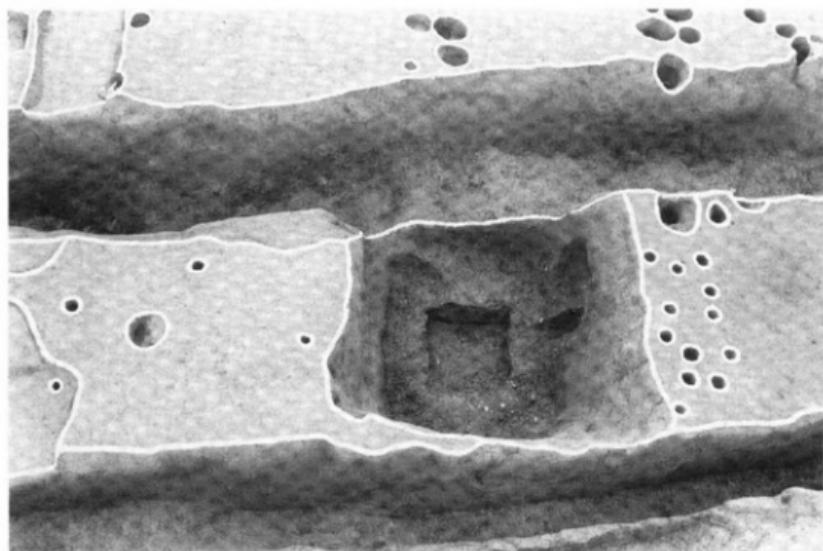
S D - 29 沟 遗物出土状态



SD-29 溝 遺物出土状態



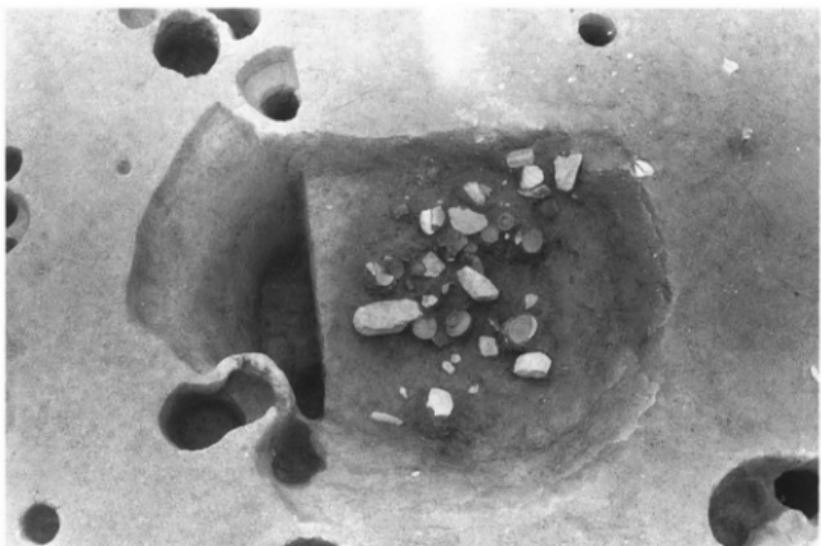
SD-30 溝 遺物出土状態



SE-02 井戸



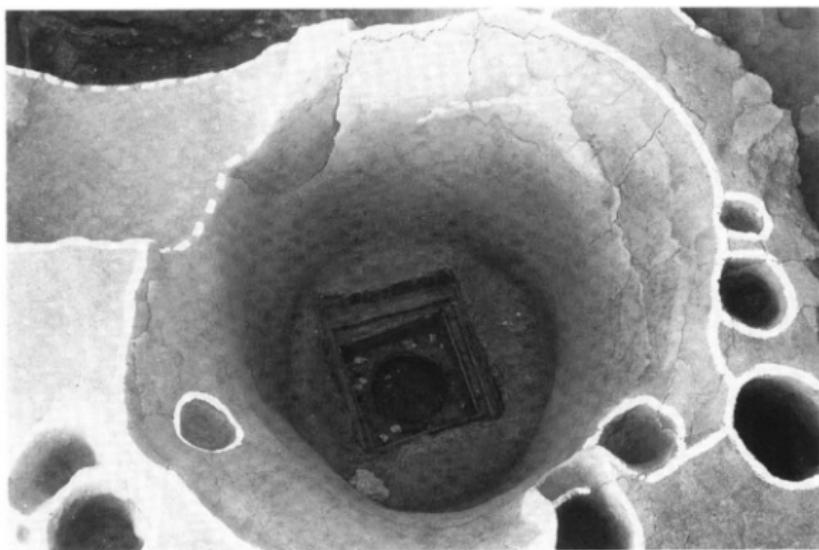
SE-02井戸 遺物出土状態



S E - 03 井戸 上面



S E - 03 井戸 上層遺物出土状態



S E - 03 井戸



S E - 03 井戸 遺物出土状態



出 土 土 器



出土填器、施釉陶器、瓦器

徳島市埋蔵文化財調査報告書第17集

阿波国府跡第6次調査概報

— 1987年度 —

昭和63年3月31日

編集 徳島市教育委員会社会教育課

発行 徳島市教育委員会

印刷 グラント印刷